



修身論

後篇

二

津
186
x3

和装本



明
號 186
卷 4.3

東洋書院藏書



脩身論後編卷

明治 年 月 日

寄贈

阿部泰藏



第七章

親ノ職務及ヒ其權ヲ論ス

親ノ子ニ對シテノ間ハ何ノ為メニ設ケテ此ニ

入ナルヤ多クハ議論ノ待タズニテ容易ニ之ヲ

知ルヘシメテ其權ハ其權ニテテテテテテテ

子ノ始メテ生ル、ヤ成長シテ後行クハキ職務

ヲ預メ知ルモノニアラス數年ニ後自ラ一身

脩身論 後編卷三

養ハサルヘカラス故ニ身軀ノ強壯ヲ要ス然レ
 凡軟弱ニシテ人ノ扶助ヲ仰カサルヲ得ス其四
 面ニ幸福ノ充滿スル有ルモ之ヲ享クルニハ知
 識ヲカルヘカラス然レモ無知矇昧ナリ種々ノ
 惡事ニ誘惑セラルヘシ之ヲ拒クノ方ハ唯道ヲ
 修ムルニアリ然レモ修身ノ道未タ立ス試ニ
 一事ヲ舉テ之ヲ云ハシ茲ニ某ノ技藝若クハ職
 業アリモ生レテ一周日或ハ一歳ノ孩兒何ヲ以
 テカ之ヲ行テ一身ヲ養ヒ餓死ヲ免ルヲ得シ
 ヤ

之ニ由ラ考フニハ小兒幼少ノ間ノ養育ト成長
 後行フヘキ職務ノ教育トヲ要スルヲ明カナ
 リ人皆此養育ト教育トヲ受ケル者ニシテ若シ
 之ヲ受ケサレハ今日生存スル者ナカルヘシ故
 ニ已ヨリ後ニ生ル者ニ之ヲ授クルヲ以テ其
 職務トス
 扱親子ノ情狀ハ恰モ此景況ニ適當セルモノ
 レテ親ハ力ヲ智アリ經驗アリテ之ヲ用テ其
 子ノ安全ヲ謀リ殊ニ之ヲ其子ノ教育ニ用ヒシ
 ト欲スルノ天性ヲ備ヘ子ハ軟弱無智ニシテ事

ヲ經驗セシメテ自然ニ父ノ指揮ニ依頼信任
 スルノ天性アリ
 是ヲ以テ親ノ職務ハ大抵教ノ一字ニ過キス
 テ此職務ヲ行フニ必要ナル事ハ隨意ニ之ヲ行
 フノ權アリ
 親ノ職務ヲ區分スルハ即チ左ノ諸件ナリ
 第一 養育
 親ハ其子相當ノ勉強ヲ為シテ一身ヲ養フヲ
 得ルニ至ルマテ之ニ飲食衣服ヲ給スルノ任アリ
 其費ノ多寡ハ親タル者之ヲ決セバハハカラ

ス子ヲ養育スルニ奢侈ニ過キ或ハ甚々儉薄
 過ルハ宜シク親ハ亦其子ヲ保護スルノ
 任アリテ之カ為テニ害ヲ防キ人ノ凌辱ヲ受
 サラシムルハハカ
 第七 身躰ノ教育
 世上近來ニ至ルマテ身躰ノ健康強壯ノ大切ナ
 ルヲ知ル者少ナカリシハ實ニ嘆スヘキノナ
 リ健康強壯ヲ得ルノ方ハ只身躰ヲ運動スル
 情慾ヲ節スルト切時ヲ注意下ニアリ故ニ身躰
 ノ教育ヲ行フテ其子ノ身躰ノ能力ヲ盡ク

發生セシメ之ヲシテ艱苦ニ慣ラシ勤勞ニ堪フ
 可カラシムルハ親ノ職務ナリ之ヲ行フニ欠ク
 ヘカラサル注意ハ親ニ非ラスシテ之ヲ能ク
 スル者稀ナルヘシ
 第三 精神ニ教育ニ良根、對氣超然ノ大イ
 精神ヲ有ツ者ノ樂ハ大イニ精神ノ教育ニ關係
 スルヲ勿論ナレハ此ノ如キ教育ハ幼時ニ於テ
 之ヲ行フヘキト明カナリ其故ハ此時ヲ過レハ
 人各自ラ一身ノ生計ノ為メニ其時間ヲ用ヒサ
 ルヲ得サレハナリ

精神ノ教育ニ於テ親タル者左ノ任アリ
 其一 親タル者力及フタテ其子ノ所好良才
 幹ト應シテ相當ノ教育ヲ授クヘシ
 其二 事業ノ成功ヲシテ最モ十分ナラシムル
 キ良師ヲ選ムルニ於テ其子ニ對シテ
 其三 師ノ能ク其職務ヲ勤ムルヤ否ヤヲ検査
 其子ヲ鼓舞シテ學業ニ勉強セシムルニ
 其四 親タル者右ノ如キ職務アル片ハ之ヲ行
 フカ為メ別ニ時間ヲ費ヤスノ任アリ諺ニ曰ク
 人各其職務ヲ行フノ時間アリト謹テ之ヲ忘ル

ル勿レ親タル者親タルノ職務ヲ行フカ為メニ
 天ノ備ヘタル時間ヲ職業若クハ歡樂等ニ用フ
 ルノ權ナキハ其ノ職ヲ行フカ為メニ
 父母其子ニ教育ニ財ヲ費ヤスヲ惜ム者アリ尤
 モ異レハ可キ事ナリ財ヲ積テ之ヲ其子ニ傳ヘ
 シカ為メニ自ラ情欲ヲ制シ又其子ニ教育ヲ授
 クル些少ノ費ヲ惜ム者アリ縱令子孫ニ幾許ノ
 産ヲ遺スモ教育ナキハ其幸福トナルコト甚々
 疑フヘシ世間ノ人其子ニ教育ヲ授クルヲ見ル
 者多クハ孰レハ学校モ皆一樣ニシテ優劣ナク

只費ノ少ナキ者ヲ擇ムノ外別ニ議論無キ者ノ
 如シ之ニ因テ數下ルラシノ金ノ為メニ其子ノ
 精神ノ切瑳ト習慣トヲ決定シ甚シキハ屢數セ
 ント為ニ之ヲ裁決スルコト少ナカラス
 第四 脩身ノ教育
 品性ノ善惡ハ大ニ幼少ノ時脩身ノ教育ニ関
 係スル者ニシテ畢生ノ苦樂モ亦之ニ因ルコト固
 ヲリ論ナシ小兒ハ脩身ノ教育ヲ教訓ト模範ト
 ニ因テ其父母ヨリ受ケサルヘカラス此教育ヲ
 行フノ方法ニ付テ父母タル者天ノ責ヲ負フモ

ノナリ故ニ父母ニ左ノ職務アリ
 其一 其子ニ天ト人トニ對シテノ職務ヲ教ヘ
 之ヲシテ人ハ修身ノ責ヲ負フ者ナルヲ知ラ
 レムヘシ之ヲ行フノ方法ハ經典ノ道理ト教誡
 ト趣意トヲ教フルヲ專一トスヘシ
 其二 勉メテ其子ノ不善ナル所好ヲ除クハ親
 ノ任ナリ傲慢頑固惡意猜忌報復忿怒虛言等ノ
 如キ不善アラハ之ヲ其初ニ察シ年齒ニ因リ或
 ハ姑息ノ為メニ習慣痼ヲ成シ動カスヘカテサ
 ルニ至ラサシ以前勉メテ之ヲ除クヘシ

其三 自ラ善事ヲ行フテ其子ニ模範ヲ示シ其
 教訓ヲシテ大ニ裨益アラシムヘシ其行フ所教
 フル所ト及スル所ハ其子教訓ヲ輕忽ニレテ其
 行跡ニ倣フモノナリト知ルヘシ
 其四 修身ノ教育ニ於テモ他ノ諸事ニ於ル如
 ク天ノ恩惠ナキハ勞シテ其功ナカルヘシ故
 ニ父母一心天ノ助ニ倚賴シテ之ヲ行フノ任
 リテ其子ト共ニ天ニ祈リ其助ヲ乞フヘシ
 其五 子ノ品性ハ大ニ其交遊ニ關係スルカ
 故ニ父母常ニ之ニ注意シテ其品性ヲ損フヘキ

明友交ラシメ或ハ之ヲ損フヘキ地位ニ居ラ
 其六親ノ子ニ對シテノ間ハ排行孰ノ子ニ於
 テモ皆一樣ナリ故ニ父母其諸子ヲ遇スル公正
 ニシテ偏頗無カルヘシ
 親ノ權ヲ論ス
 親ノ權ハ其職務ト相等シクシテ其子ノ身軀精
 神修身ノ教育ヲ行フノ責ヲ負フカ如ク亦其責
 ヲ行フカ為メニ欠クヘカラサル身軀精神修身
 ノ制御ヲ為スノ權アリ

親ハ其子ノ費用ト身軀ノ習慣ト其教育ノ處
 方ト其受クヘキ修身ノ教育ノ種類ト其交ルヘ
 キ友トヲ指揮スルノ權アルヲ勿論ナリ又何等
 ノ方法ニテモ道理ニ背クモノニ非ラサレハ之
 ヲ用テ其子ヲシテ己ノ意ニ從ハシムルノ權ア
 リテ審ニ利害ヲ判断シ才幹ヲ盡シテ其子ノ益
 トナルヘク此權ヲ用フルヲ親ノ任トス但シ親
 ノ權柄ノ存スル間ハ其權柄最モ尊キカ故ニ若
 シ親ノ謬誤アルキ之ヲ補ヒ救ヌ方ナシ
 然レモ親ノ職務ト權トハ永ク存スルモノニ非

子歳時ヲ歴ルノ間ニ自ラ一身ヲ養ヒ自ラ精神ヲ研キ自ラ脩身ノ職務ト任トヲ決断スルヲ得ルニ至ルヘシ此ノ如クナルハ親ノ責ノミヲ以テ論スレハ親子ノ間全ク終ルモノトス此時限ハ子ノ成人トナル時ニシテ國法ニテハ二十一歳ニ滿ル時ト定ムレ氏事實ニ於テ之ヨリ早キモノアリ或ハ遲キモノアリ師ノ權柄ハ父母ノ委託セシ權柄ニシテ師ハ父母ニ對シテ責ヲ負ヒ弟子ニ對シテ責ヲ負フモノ

ニ非ラス是ヲ以テ師ノ弟子ニ於ルハ猶親ノ子ニ於ルカコトク師ハ上ニメ弟子ハ下ナリ扱師ノ職務ハ師ト父母トノ相互ヒニ約定セシ箇条ニ因テ定限アリ其權ハ常ニ其職務ト相等シ即チ委任ヲ受ケタル目的ヲ達スル為メニ必要ナル權アルモノニシテ此定限ノ内ニ於テハ何事ニテモ弟子ニ命令スルノ權アリ又弟子ハ之ヲ從フヲ以テ義務トス

第八章

子ノ職務及ヒ其權ヲ論ス

子ノ職務ハ左ノ諸件ナリ
 第一 從順即チ父母ニ命セラレタル事ハ其當
 否ヲ論セス只其父母ノ意タルノ故ヲ以テ之ニ
 從フノ任アルヲ云フ獨リ本心ニ關係セル事件
 ハ此例ニ非ラス子タル者其父母ニ從フヨリハ
 寧ロ天ニ從ハサルヘカラス故ニ父母ノ命ト雖
 非ナリト思フ事ヲ行フノ任ナレ然レ此ノ如
 キ時ニ於テモ猶父母ニ抗抵シテ之ト爭論スル
 ノ權ナシ
 第二 父母ヲ尊敬スヘク尊敬トハ下ヨリ上ニ

對シテ當然ナル行ト感覺トヲ云フモノニレテ
 子其父母ニ對シテハ他人ニ施サレ尊敬ヲ行
 フヘシ是少シモ辱トスヘキ事ニ非ラス却テ其
 榮ニシテ子ノ父母ヲ尊敬スルヨリ威儀ナリテ
 礼ニ合フモノナレ佛蘭西帝ナボレヲ以テ權威威
 大ノ極ニ於テ其母ヲ尊敬セシ時ノ如ク威儀ナ
 リレト無カシキ此道理ヲ推シテ考フレハ長者
 ハ總テ尊敬スヘキモノナルヲ知ルヘシ
 第三 孝愛即チ父母ノ父母タルノ故ヲ以テ子
 之ヲ愛スルノ情ナリ父母ハ人類タルニ因リ或

其善人タルノ故ヲ以テ之ヲ愛スヘキノ理ナ
 キニ非ラサル所別ニ其父母タルノ故ヲ以テ之
 ニ對レテ一種ノ愛情ヲ懷クヘキノナリ之ニ
 因テ常ニ父母ニ關係スル事ハ輕率ニ之ヲ談セ
 ス其樂トナルヘキ事アラハカク竭レテ之ヲ求
 ムヘキ總テ是等ノ事ヲ行フニ父母ノ父母タル
 ノ故ヲ以テ之ヲ愛スルノ情ヨリ出ルヲ人ノ職
 務トス此愛情ヲルキハ父母ニ事フルハ何様ノ
 景況ニ於テ之ヲ行フ所少シモ勞苦トナラズレ
 テ却テ樂トナルヘレ

弟由 父母老イテ後人ノ扶助ヲ要スルハ之
 ヲ養フ不子ノ職務タリ老衰貧窮ナル父母ニ需
 ニ供給スル所為メ甘レテ己ニ克チ其奢侈若
 シハ便利ヲ廢セテ其中心ハ其恩ヲ知ルル亦罪
 人類ノ所行ニ非ラズ母ニ事フルハ重責ナリ
 唯必要ノ扶助ヲ以テ非テ天父母ノ貧窮大
 致サレ民亦子ノ之ニ對レテ行フヘキ好意感歎
 龍恩ヲ表スヘキ事數種アリテ之カ為メ大ニ
 父母ノ樂ヲ増進能ク老後ノ鬱悶ヲ消スル事
 ノナリ此仁惠從順ナル子ハ孝愛ヲ表

スルノ機會ヲ求ムルヲ其樂トスルニ非ズ
 經典ニ於テ子ノ職務ヲ説クヲ叮嚀ニシテ且其
 教誡人心ヲシテ感動セシムルニ是ル念一ニ不
 舉テ其例ホスルニ非ズ
 曰ク天ノ賜カ所ノ國ニ於テ汝ノ日月ノ長ヲ
 之ヲ欲セシ汝ノ父母ヲ敬スヘシト聖徒ホ
 ル人言ハシ如ク十誡中ニ於テ特ニ約束ヲ添
 外獨リ此箇条ノ事ニ由テ其業ヲ
 曰ク我子ヤ汝ノ父ノ教訓ヲ守リ汝ノ母ノ法則
 昔ク勿レ是レ汝ノ頭上ノ美麗ナル飾ニシテ

汝ノ頸ノ鍊ナルハニ
 曰ク賢良ナル子ハ父ノ教訓ニ從ヒ頑愚ノ者ハ
 譴責スルヲ聽カズ
 曰ク子天ノ於テ父母ニ從フヘシ是レ正レキ行
 事ト據スルニ天ニ於テトハ天ノ意ニ從フテ
 ト云フノ義ナラシ
 曰ク子何事ニ於テモ父母ニ從フヘシ是レ天ノ
 甚ク好ニスル所ナリ
 天ノ誠ヲ破ル者ニ對シテ天ノ怒ヲ告ルヲ屢ナ
 リ左ニ其例ヲ掲ク

曰ク其父母ヲ輕ニスル者ハ禍ヲ蒙ルヘシ而
 レテ人皆然リト謂フヘシ
 曰ク愚人ハ其父ノ教訓ヲ輕レス
 曰ク其父ヲ戲弄シ又其母ニ從フヲ輕蔑スル
 ノ眼ハ幽谷ノ鳥之ヲ挾出シ鷹隼之ヲ食フヘシ
 ト是レ非命ニ死シテ其終ヲ善クセサルヘシト
 云フ義ナリ
 右ニ引用セシ經典ノ教誡ニ由テ左ノ事件ヲ知
 リ得ヘシ
 第一 經典ハ父母ニ從フヲ教法ノ職務ナリト

シテ之ヲ教誨ス故ニ此職務ヲ破ルキ人ニ對
 シテ罪ヲ犯セ如ク亦天ニ對テ罪ヲ犯セル
 モノニシテ經典ニ於テハ父母ニ從順ナラサル
 フ以テ天ノ最モ惡ム所ナリトス
 第二 父母ニ從順ナルハ決シテ卑陋ノ所行ニ
 非ラス却テ其榮ニシテ人ニ一層ノ美ヲ加フル
 モナリ
 第三 父母ニ從順ナラサル者ハ非常ノ罰ヲ蒙
 ハルヘキモノニシテ古來ノ經驗ニ據ルニ幼時
 父母ニ不孝ナル者ハ必ズ成長ノ後ニ至リテ恥

ヲ致シ不幸ヲ招クモノナリ
 子ハ父母ノ前章ニ記セシ如キ職務ヲ行ヒ最モ
 其子ノ益トナルヘク其權柄ヲ用フヘキヲ期望
 スルノ權アリ然レモ父母其職務ヲ欠ク片ハ不
 孝ヲ行フテ可ナリト思フヘカラス繼令父母父
 母タラスト雖モ子ノ之ヲ愛敬スルノ職務ハ天
 ノ確定セルモノニシテ依然トシテ變スルコトヲ
 子ノ權ト職務トノ存スル時間ヲ論ス
 父母其子ニ代テ其行ノ責ニ任シ子ハ其父母

倚賴スルノ間ハ何事ニテモ己ノ意見ヲ用ヒス
 之ニ父母其後スル子ノ任事ニ兩方子自ラ亦
 身ノ責ニ任スルニ至レハ後順ノ任終ル然レモ
 其後ニ於テモ指教ノ貴重ナル私無ク且ツ大
 抵善良ナルハ父母ノ如キ者ナシ父母其後ト
 父母ヲ敬シ父母ヲ愛スルハ任事生涯存スルモ
 不ニシテ年ヲ経ルニ隨ヒ寧ロ増スルアルモ減
 スルコトナシ子ノ年ノ長スルニ隨テ次第ニ尊敬
 不行ト憐愛ヲ表スルハ力ヲ盡シ父母ノ老ルニ
 隨テ次第ニ人ノ服事ノ必要ナルヲ覺シ其樂

次第ニ之ニ關係スルニ至ル是レ幼少ノ時父母
撫育ノ恩ヲ報シ且ツ輕率剛愎ニシテ父母ヲ苦
シマシメタル罪ヲ償フノ時ナリ
師ノ弟子ニ於ルハ猶親ノ子ニ於ルカゴトモ
ハ前章既ニ之ヲ載セタリ扱弟子之師或於ル天
猶子ノ親ニ於ルカゴトクテシテ父母ニ從順ナ
ルハキ道理ニ本ツキ亦其師ニ從順ナル且シ師
弟ノ間ヲ存スルト否トハ父母ノ決斷ニ倚ルモ
ハニシテ其存スル間ハ從順尊敬愛情ヲ以テ弟
子ノ職務トスルハ其責ニマナシク其責其責ハ

第九章

人民之職務ヲ論ズ
第一條 政府之本義
譬ハ茲ニ男女凡ソ二十人アリ其家族共ニ
無人ノ絶島ニ漂流セシムル直ニ家ヲ造リ地
耕シ動物ヲ捕ム以テ風雨ヲ避ケ飢餓ヲ免ル
外脩ヲ為サシムルヲ得サルヘシ此ノ如クニシテ
各家ノ造築收納漁獵セシ所ノ物ハ各其所有ト
為ス可キ勿論ニシテ何人ニテモ之ヲ他人ト

貿易セシルハ貿易シテ得タル物モ亦其所有品
 タルヘシ即チ人各己ノ為ニ勞動シテ己ノ製
 作セシ物ヲ己ノ所有品ト為スヘシ
 各人此ノ如クニ行フテ相互ヒニ妨害ヲ為サ
 レハ安樂ニ歲月ヲ送り法ヲ立テ政府ヲ設ケル
 ヲ要スルヲ然レモ若シ何人ニテモ其行之
 ニ差ヒ或ハ隣人ノ家ヲ追出シテ其家ヲ奪ヒ
 或ハ隣人穀物ヲ收納セシ所往テ之ヲ掠メ之ヲ
 己ノ家ニ輸送シテ隣人ノ餓死スルニ任シ他人
 亦之ヲ見テ其勞セスニテ生計ヲ得ルノ便利ヲ

羨ミ復タ其隣人ニ對シテ同様ノ事ヲ為サント
 スヘシ此ノ如クニシテ何人モ其勞動ノ報ヲ享
 クルヲ能ハサル片ハ終ニ一人モ勞動スル者ナ
 クシテ或ハ餓死シ或ハ其處ヲ去リ獨リ無人ノ
 地ニ赴キ常ニ荒野ニ住ムノ不便ヲ受クルニ至
 ルヘシ
 若シ家ヲ失ヒシ者報復ヲ謀リテ之ヲ奪ヒシ者
 ノ家ヲ燒ク片ハ雙方共ニ家ニ離レ財ヲ失ヒタ
 ルヲ以テ他ノ二家ノ所有ヲ奪フヘシ然ル片ハ
 家ヲ失ヒタル二家亦之ヲ奪ヒタル二家ヲ燒テ

讐ヲ復レ此ノ如クニシテ終ニ家屋財産一モ存
 スルモノナク殖民忽チ盡クルニ至ラサレハ止
 ムトナカルヘシ
 扱世間ニ右ノ如キ事ノ有ラサルト勿論ニシテ
 此ノ如キトハ之ヲ禁止セサルヘカラス其方法
 ハ只之ヲ其初一技テ禁止スルニ在リ故ニ始メ
 テ盜賊ヲ行フ者アル片ハ總社中舉テ之ニ逼リ
 其奪ヒタル所有ヲ本主ニ返サレシ再ヒ盜賊ヲ
 行フ者アル片ハ必ラス此ノ如ク為スヘシトノ
 約束ヲ定メサルヲ得ス然レモ猶盜賊ノ絶エサ

ル片ハ之ヲ罰スルノ方法ヲ定メ其隣人ノ所有
 ヲ妨害ヲ為スコトヲ得サレシムベシ是即チ此小
 社中第一ノ法ナリ
 社中右ノ法ヲ立テ他人ノ所有若クハ權ニ對シ
 テ妨害ヲ為ス者無カラシメシトスルヲ以テ何
 人ニテモ自ラ其讐ヲ報レ或ハ人ノ為メニ奪ハ
 レタル者ヲ力ヲ以テ之ヲ復セシトスルヲ要セ
 ス故ニ社中約束ヲ結ビ何人ニテモ人ノ為メニ
 害ヲ被ハリシ片自ラ報復ヲ行ハスレテ必ス社
 中ニ訴ヘ其裁判ヲ乞フヘシト定ムヘシ其故ハ

害ヲ被リレ人自ラ害ノ大小ト何等ノ補ノ相當ナルヤヲ決スルハ他人ノ之ヲ決スルノ公平ナルニ如カスレテ何人ニテモ己ノ事件ヲ自ラ裁判スルハ甚々宜シカラス是即チ此社中第二ノ法ナリ

然ルキハ此ニ方ハ第一何人ヲ問ハス何様ノ方法ヲ論セス其隣人ノ權ヲ妨クヘカラス第二何人ノ為メニ妨ヲ受クルモ妨ヲ受ケタル者自ラ報復ヲ謀ラスレテ總社中ニ訴ヘ其裁判ヲ乞フヘシ是ナリ

時ヲ経ルノ間妨害ノ類一ナラス法モ亦隨テ數條ニ分レサルヲ得人其隣人ノ土地ヲ侵ムルアリ之ヲ補フノ法無カルハカラス或ハ白晝盜ヲ行フヲ或ハ夜中盜ヲ行フアリ或ハ家ヲ破ルアリ或ハ馬ヲ盜ムアリ之ヲ罰スルノ法各異ナラサルヲ得不_レ妨害ノ報復ニ於テモ亦然リ或ハ害ヲ為セシ者ヲ打テ怨ヲ報スルアリ或ハ其家ヲ燒テ讐ヲ復スルアリ是等ノ罪惡ハ一々之ヲ區別シテ明亮ナラシメ無罪ノ者ヲシテ有罪ノ者ト混スルトナク有罪ノ者アリテ相當ノ罰

ヲ免ル、一無カラシムヘシ
社中ノ人口増シテ法ヲ立ル、モ亦多カラサル
ヲ得サルニ至ルハ、事有ル毎ニ衆人盡ク集會
スル、ト能ハサルヘシ故ニ數人ヲ命シテ其名代
トナシ之ヲシテ法ヲ立ルノ事ヲ掌ラシメザル
ヲ得ス之ニ因テ八九人ノ人共ニ謹慎賢明ノ者
一人ヲ選テ其名代ト為シ集會ニ於テ名代人ノ
同意セシ事ハ必ス之ヲ守ルヘシトノ約束ヲ定
ムヘシ此名代人ハ即チ立法官ニシテ其集會ハ
即チ公會ナリ

法ヲ立レ後妨害ヲ為ス、ト屢ナルハ雙方ノ曲
直ヲ決ヒシカ為メ總社中舉テ集會スル、ト能ハ
ス故ニ數人ヲ命シテ訟ヲ聽キ國法ニ依テ之ヲ
裁決スルノ事ヲ掌ラシメサルヲ得サルヘシ此
ノ如クスレハ時ヲ費ス、ト少ナクシテ裁判モ亦
其宜ヲ得可シ之ヲ掌ルノ人ハ即チ司法官ニシ
テ其集會スルハ之ヲ裁判所ト云フ
司法官曲直ヲ決シ惡人ノ罰ヲ定メタル後之ヲ
實地ニ施スノ人無カルヘカラス之ヲ行法官ト
名ク奉行ヒルコトス、ト一ブル共ニノ類即チ

是ナリ
叔立法、司法、行法ノ三官ヲ合シテ之ヲ國ノ政府
ト名ツク是等ノ官吏ハ法ヲ立テ之ヲ實地ニ施
用シ國中ニ於テ一人モ其隣人ノ權ヲ妨クル者
無カラシメ若シ之ヲ妨クハ者アレハ之ヲレテ
補テ為シ其罪惡ノ罰ヲ受ケレメン為ノ人民ニ
其職ヲ命セラレタル者ナリ
是ヲ以テ人民ノ職務ハ大抵左ノ件カナリ
第一 人民ハ何人タリ凡其隣人ノ權ヲ妨クハ
カラストノ約束ヲ結ビタルヲ以テ自己モ亦此

法ニ背クヘカラス他人ト相交ルノ際其身體ノ
自由、品性、評判、所有、家族ノ事ニ關係有テ人間相
互ノ職務ニ從フハ即チ己ノ欲スル所之ヲ人
ニ施スヘキヲ云フハ也
第三 他人此法ニ背キテ己ヲ害スルコトアリ
自ラ補テ求メズ此テ之ヲ社中ニ任シ即チ約束
ノ如要之ヲ裁判所ニ訴テ其裁斷ヲ乞フヘキ也
第三 國法ハ總テ立法官之ヲ立ツヘシトハ約
束ヲ為セシヲ以テ立法官人民ノ委任セシ權柄
ヲ用テ定メタル國法ハ總テ之ニ從ハサルヘカ

第四 人民ハ各人ヲ保護スヘシト約束ヲ結ビ
 タル社中ノ一人ナルヲ以テ人ヲ保護セシ為ニ
 ニ必要ナル方法ヲ盡シ貴賤貧富各十分ニ其權
 ヲ用テ己ノ樂ニ供スルヲ得セシメ若レ他人
 ノ為メニ妨害ヲ受クル者アラバ力ヲ極メテ十
 分ニ其補ヲ得セシムヘシ
 第五 政府ノ目的ヲ達スルニハ費用ヲカクルヘ
 カラス行法立法司法諸官皆之ニ俸祿ヲ與ヘ
 サルハカラズ而シテ各人政府ノ恩澤ヲ蒙ラザ

ル者ナリ故ニ甘レテ其費用ヲ出ス可シ
 茲ニ一例ヲ設ク上ノ諸説ヲ解明スヘシ警ヘハ
 甲乙ノ為メニ其馬ヲ竊マレ國法無ク亦政府無
 キ片ハ自ラ行テ馬ヲ返サレバ乙之ヲ
 肯セサルヘシ若シ甲力ヲ以テ之ヲ復セシトス
 ル片ハ乙之ヲ抗抵シテ若シ其力甲ヨリ強キハ
 ハ之ヲ逐ヒ之ヲ傷カ成ハ再ヒ煩勞ヲ受カザル
 力為メ之ヲ殺スル無キニ非ラズ此ノ如ク
 甲少シキ補ヲ得ルニ能ハスニテ翌日ニ至リ
 乙再ヒ甲ノ牛ヲ掠メ成ハ其家ヲ奪フコトアル氏

甲之ヲ避クハ能ハサルハ其ノ事ハ一
但、國法アリ政府アル所ハ雲泥ノ差ニレテ偷
盜ヲ禁スルノ法アリ以テ偷盜ヲ行ヒタルト否
ト決スルノ司法官アリ賊ヲ罰シ其奪ヒタル
所有品ヲ本注ニ返スノ官吏アルハ
借甲乙ノ為メニ馬ヲ竊マルハ其ノ罪ニ是
キ之ヲ返サシムルハ其ノ執締役ノ處ニ至
リ乙ノ馬ヲ竊ミタルハ其ノ執締役ノ處ニ至
締役即時ニ乙ヲ呼ヒ若シ乙来ルハ其肯ニセリ
ハ其セリ市中ノ人ニ命テ其助ヲ借リ強テ

之ヲ伴ヒ来ルノ權柄アルヘシ然ルハ甲乙各其
辞ヲ述ベ若シ甲馬ノ已テ物タルヲ証スルト
得レハ執締役之ニ馬ヲ與ヘシハ詮議ノ為メ之
ヲ入牢セシメ上等ノ司法官集會セシキ近傍ノ
者十二人ヲ命テ立合人ト為シ乙ヲ立合人ノ
前ニ呼ヒ立合人ヲ以テ證據ヲ探リ乙ノ馬ヲ竊
ミタルヤ或ハ他ノ方法ニテ之ヲ得ルヤヲ詮
議セシメ立合人ハ罪固有無ヲ決シ司法官ハ法
ヲ按シテ其罰ヲ定メ若シ罪無キハ之ヲ免ル
シ罪アルハ司法官國法ニ從テ竊盜ヲ罰シ其

罪入牢ニ當レハ「セリ」之ヲ入牢セシメ期限ノ
 満ルマテ之ヲ幽囚スヘシ
 此例ニ由テ考フレハ國法アリ政府アルキハ人
 各公平ノ裁判ヲ得ルヲ國法無ク政府無キニ比
 スレハ幾倍セルヲ知ラス故ニ此ノ如キ國法
 文明ノ國ニ住スルハ一大幸福ト謂フヘシ
 第二條
 政府ノ種類
 前条ニ於テ記載セシ政府ハ人選政府ト名ツク
 ル者ニシテ諸官或ハ人民ノ選舉ニ依テ之ヲ命

シ或ハ人民ノ選舉ヲ受テ終止者人ヲ選ム所之
 ニ任ズ我合衆國ニ於テ立法官奉行大統領等
 人民ノ選舉ニ依テ司法官及ヒ他ノ官吏ハ或ハ
 人民ノ選舉ニ依テ之ヲ任スルアリ或ハ立法官
 之ヲ命ス知ナリ
 然レモ政府盡ク人選ニ非ラズ亦世襲政府ト名
 ズル者アリ子孫父祖ノ職ヲ襲フ者是大抵此種
 類ノ政府ニ於テハ王死スルキハ其子代テ王ト
 ナリ其家屋田地ヲ承クル如ク亦其職ヲ襲キ若
 シ父立法官タルキハ其子亦父ノ職ヲ襲テ立法

官或ハ人民ノ選舉ニ依テ之ニ任レ或ハ人民ノ
 選舉ヲ受ケタル者人ヲ選テ之ニ任ス
 是等ノ政府ノ種類ハ純貴ナルモノアリ或ハ混
 合セルモノアリ大體貴族ニ依リテ立君政府ニシテ帝ノ共
 魯西亞ノ政府ハ純一ノ立君政府ニシテ帝ノ共
 事ヲ議スル所ノ者ハ唯己ノ命シタル評議人
 ノミニシテ限ナキ權柄ヲ有スルモノナリ
 英國ノ政府ハ混合ノ立君政府ニシテ王ト上院
 ト下院トノ三部ヲ合セタルモノナリ
 王ノ職ハ世襲ニ依リテ國王ハ國中ノ首長ナリ

上院即チ貴族ハ立法官ノ第二部ニシテ其職亦
 世襲ナリ初ハ國王ヨリ命セラレト雖ハ一
 貴族トナル片ハ子孫相襲テ永ク之ヲ失フ
 無
 立法官ノ第三部ハ下院ナリ下院ハ共和政府
 ニ於ルカ如ク人民ノ選舉ニ依テ之ヲ命スルモ
 ノニシテ總テ英國ノ法律ハ王上院下院ノ二部
 盡ク同意スルヲ非テサレハ之ヲ立ルヲ能ハス
 何等ノ政府ニテモ官吏有徳ノ人ニシテ心ヲ用
 テ國人ノ安全ヲ謀ル片ハ其國太平安穩ニシテ
 人々其樂ヲ樂ムトヲ得可シ然レハ是等ノ政府

ノ中ニ於テ官吏不善ニシテ殘忍暴虐ナル者ハ
 變革ヲ行ヒ内亂ヲ起スニ非ラザレハ其權柄ヲ
 制御スル術無キモノアリ然ルニ人選政府
 於テハ權柄ノ民ノ手ニ在テ政府ハ暴虐ニ苦
 ハハ危險無シ只人民互ニ相害スルヲ以テ其危
 險非スルコトニ然レハ此危險ハ尋常世ノ思想
 スルヨリ甚々大ナルモノナリ其ハ其時
 貴族第三條ハ其時
 世變ニ合衆國ノ政府
 合衆國ハ其初歐羅巴ヨリ居ヲ移シメイ州

シヨルニア州トノ間ノ大西洋ノ岸ニ上陸セシ人
 民ノ殖民セシモノニシテ就中英國ヨリ移レル
 者最モ多シ是等ノ移民其居ヲ定ムルニ至テ各
 政府ヲ設ケ其數ノ増スニ及テ境界ヲ定メ數政
 府ニ分レテ全海岸ヲ領セリ然レハ皆英王ヨリ
 免狀ヲ受テ其附屬タラサル者ナク奉行ハ大抵
 英王ノ命セン所ニシテ司法官等モ亦之ニ因テ
 命セラレシ者少ナカラス
 移民ノ權柄強大ナルニ及テ本國ト隙ヲ生シ終
 ニ亞墨利加革命ノ亂トナリテ永ク英國ノ管轄

ヲ離レ萬國ノ許ヲ受テ其善トスル所ノ道理ニ本
ツキ其好ム所ノ方法ヲ以テ別ニ政府ヲ立ルノ
自由ヲ得タリ

革命ノ亂終テ後直ニ政府ヲ立ンカ為テ諸州ヨ
リ名代人ヲ出シ一千七百八十七年九月十七日
政體一決シテ之ヲ諸州ニ示シ其允許ヲ乞ヒシ
カ終ニ諸州盡ク之ヲ允許セリ是即チ方令我國
ノ政府ナリ

此政府ノ大略ハ即チ左ノ如シ

各州英國ノ管轄ヲ離レシ片大政府ニ委任セシ

權柄ノ外總テ從前ノ權柄ヲ保チ其官吏ヲ命シ
其法ヲ立テ其罪人ヲ罰シ總テ全國ニ關係スル
事ニ非テオレ之ヲ專ラニスルノ權柄アリ
但シ一州ノ安全ニ關係セズ廣ク全國ノ安全ニ
關係スル事ハ大政府ノ任ナリ然レ片大政府ノ
權柄モ政體ニ因テ限アリテ之ヲ踰ルルヲ能ハ
ス
合衆國政府ノ首長ヲ大統領ト名ツク其在職四
年ヲ限トシ諸州ノ人民若クハ立法官ノ選ミタ
ル選舉官賢ヲ選テ之ヲ命ス

合衆國ノ立法官ハ分テ上院下院ノ二部トス
 上院ノ議員ハ一州毎ニ二人ヲ出シテ在職六年
 ヲ限トシ州ノ立法官人ヲ選テ之ヲ命ス其
 下院ノ議員ハ諸州ノ人民ノ選舉ニシテ每七万
 零六百八十人中ヨリ一人ヲ出シ在職二年ヲ限
 トス總テ合衆國ニ於テハ大統領ト上下兩院ト
 ノ允許ヲ受ケサレハ國法ヲ立ルヲ能ハス但シ
 兩院ノ議員同意スル者三分ノ二ナレバ大統領
 之ヲ拒テ同意セスト雖凡立テ國法トスルヲ
 得

大統領ト上院トハ外國ト盟ヲ結ヒ又合衆國裁
 判所ノ司法官外國使節海陸軍ノ士官等ノ如キ
 大官ヲ命スルノ權柄アリ
 合衆國裁判所ノ司法官ハ總テ合衆國ノ法ヲ犯
 セル事件此州ノ人民ト彼州ノ人民トノ訟及ヒ
 合衆國ノ人民ト外國人トノ間ニ起レル争ヲ詮
 議スルノ權柄アリ諸州ノ法ヲ犯セル罪ハ本州
 ノ司法官之ヲ詮議シ每州奉行ト一部若ハニ
 部ノ立法官アリテ其政體ヲ供ヘ其法ヲ定メ其
 官吏ヲ命シ總テ其州ノ安全ニ必要ナル事ハ之

ヲ行フノ權柄アリ

仁惠ノ職務ヲ論ス

第一章

仁惠ヲ論ス

是々テ論シタル職務ハ人間相互ノ職務ニ由カ
 人ノ之ヲ他人ニ行フハキ者ニメ他人ヨリ之ヲ
 要スルノ權アリ即チ己ノ隨意ニ其樂ヲ求ムル
 他他人ノ隨意ニ其樂ヲ求ハルノ權ヲ妨クヘカ
 ラサルノ職務是ナリ
 人只此職務ヲ守テ他人ノ妨ヲ為サハルノミト
 雖モ方今ノ景運ニ比スレハ世上大イニ安樂ニ

之ヲ絶テ暴虐盜賊讒言等ノ如キ入ノ害トナル
 ヘキトナク人々平和安穩ニ歲月ヲ送ルヲ得
 ヘシ
 然レモ世上ヲシテ十分ニ安樂ナラモルニハ
 他人ノ妨ヲ為サレハ外猶欠クヘカラスナルノ
 職務ノ即チ帝他人ノ事ニ關係シテ其妨害ヲ
 為サレルノミナラス亦之ニ對シテ善事ヲ行フ
 ヘシ之ヲ仁惠ノ定則トス
 夫レ人々時トシテ病ヲ受クルノ恐アラサル者
 ナク或ハ多病ニシテ常ニ健康ノ日ナキ者アリ

テ病中ハ^{ホシ}労働シテ衣食ヲ得ルヲ能ハス甚タレ
 キハ自ラ起居スルヲ能ハサルニ至ルアリ
 若シ然ルル人々之ヲ失ケサレハ病人必ス死ニ至
 ルヘシ且人々偶然ノ災害ニ遭フコトアリ之ヲ助
 ル者ナキハ^{ホシ}艱難ヲ免ルコト能ハス譬ハ途
 上ニ於テ小女ノ車ニ^{ホシ}轆ラレタルヲ見レモ已レ
 其思ヲ受ケタルコトナキヲ以テ已レノ職業ヲ務
 メシカ為メ其死ニ至ルヲ顧ミサルハ實ニ大惡
 ニシテ人以前ニ此小女ヲ見レトナク以後亦之
 ニ逢フコトナカルヘシト雖モ力ヲ盡シテ之ヲ救

フク任アルヲ覺ユ是即チ人ハ仁惠ヲ行フヘキ
 ノ任アルヲ覺ユルナリ
 又茲ニ童子數人アリ書ヲ讀ミ字ヲ寫スコトヲ解
 セシテ人ニ裨益アルノ書ヲ讀ムノ樂ヲ享ク
 ルヲ能ハス諸其近隣ニ二人ノ少年アリテ一人
 ハ童子ニ報スヘキノ恩ナキヲ以テ己ノ職業ヲ
 務ムルニ如スト謂テ之ヲ顧ミス一人ハ童子ニ
 恩ヲ受ケタルト否トヲ論セス之ヲ集メテ讀書
 寫字算術ヲ教ヘ後來世間ニ有用ノ人ヌラシメ
 ントスルハ二人ノ中孰カ最モ愛スヘキヤ孰

レカ其職務ヲ行ヒタルヤ孰レカ天ノ意ニ合フ
 ト称スヘキヤ
 又是等ノ童子大惡ニシテ擔ヲ為レ虚誕ヲ吐キ
 偷盜ヲ行フハ善人其所行ヲ見聞シテ大イニ
 之ヲ悲ムヘレ其中最モ兇惡ニシテ最モ長大ナ
 ル者ハ之ヲ罰スルヲ以テ其職務トスルノ外別
 ニ他ノ方無カルヘレ諸二人ノ中一人ノ曰ク此
 ノ如キ所行ヲ制止スルハ我人民タルノ職務ト
 リ依テ是等ノ童子ヲレテ獄ニ下ラシムヘレ然
 レ其他ハ我關係スル事ニ非ラス若レ童子等

過ヲ改メスレテ終ニ身ヲ止スニ至ラハ自ラ招
ク所ナリト然ルニ一人ハ行テ之ニ其所行ノ不
善ナルヲ示レ親切ニ教諭シテ之ヲ善ニ導キ
盡ク善良ノ童子タラシムルハ二人ノ中孰レ
カ最モ好ミスヘキヤ孰カ是等ノ童子ニ對シテ
其職務ヲ行ヒタルヤ孰カ天ノ意ニ從フト謂フ
ヘキヤ
又是等ノ童子人ヲ輕侮シ其所有ヲ偷ミ其人往
テ之ヲ教戒セントスルハ却テ之ヲ嘲笑レ多方
其害トナルハキコヲ行フハ去テ之ヲ顧ミス

レ難曰ク我彼等ヲ教ヘテ徳ニ進ミ樂ヲセケシ
相シカ為メ自ラ錢ヲ費シレ報ヲ受ケスハ吾人
ハ聖然ルモ却テ彼等即為メテ害ヲ被リ區ヲ受
ケ物ヲ失フ我去テ彼等ノ身ヲ止スニ任
ト或ハ曰ク我彼等ノ我ヲ遇スル何様ナ
ハスカヲ盡シテ其益トナルヤキコヲ行フヘシ
彼等ノ我ニ對シテ愈惡事ヲ行フハ彼等ノ教
諭ヲ要スルト愈明カニレテ我愈力ヲ盡レテ之
ヲ善ニ導クハ彼等益我ヲ憎ムハ我益彼等ヲ
愛ス可シト此兩様ノ所行孰レカ最モ愛スヘキ

七ハ汝ノ敵ヲ愛シ汝ヲ咒詛スル者ノ福ヲ願ヒ
 汝ヲ憎ム者ヲ惠ミ汝ヲ凌辱スル者ノ為ニ祈
 禱スヘシ其故ハ天ハ善人惡人ノ別ニ太陽ヲ
 照レテ之ヲ照サシム正人ト不正人トヲ論セス兩
 方レテ之ヲ露サシムレハナリト云フ然レバ
 慈悲トハ人間相互ノ職務ニ由テ我ニ要スル
 權ヲク我之ニ施セ凡其報ヲ受クルノ望ナキ者
 ノ樂ヲ達セシムルヲ云フ不問ノ受クハ望ムル
 仁惠ヲ行フノ方法ハ天ノ摸範ニ倣フ資ニ不
 之由テ考フレハ左ノ諸件不明ナリ罪人ト云

第一 夫レ天ハ其造リタル萬物ニ對シテ一毫
 ノ任ナレト雖凡之ニ樂ヲ與フル人無盡藏ナリ
 故ニ人其才能所有ヲ用テ他人ノ樂ヲ達セシメ
 サルヘカラス總テ天人ニ賜フ所ノ物ハ之ヲ
 用テ直ニ己レノ樂ヲ得セシメレカ為メニ非ラ
 ス人ヲ樂マシメテ己レノ樂ヲ得セシメレカ為
 メナリ
 第二 天普通ノ幸福ヲ與フルニ之ヲ受クル者
 ノ人物ヲ論スルヲナク兩方レテ正人ト不正人
 トノ別ナク之ヲ露サシム人モ亦此摸範ニ倣ハ

サルヘカラス夫レ人物ヲ戀ヒ徳行ヲ尚ムハ人
 ヲ擇マサルヘカラスト雖ヘ此慈悲ニ於テハ之
 ヲ要スル者アルキハ其人物ヲ論セス之ヲ施ス
 ヘシ故ニ艱難ヲ救ヒ禍災ヲ憐ミ貧窮ヲ濟ヒ疾
 病ヲ扶ケ無知ヲ教ヘテ其人物ノ賤ムヘク憎ム
 ヘキモ措テ之ヲ論スル勿レ

第三 天ノ摸範ニ由テ考フレハ人ノ仁惠ヲ施
 スハ之ヲ受クル者何様ノ感覺ヲ懷クル之ニ關
 係スヘカラサルヲ知ルヘシ古昔人類ノ天ノ罪
 人タリシ時ト雖天猶棄スレテ之ヲ救ヘリ我

聖人ト亦人ノ暴害毒惡ヲ受ケタレモ志ヲ移サ
 ズ天ノ仁惠ヲ施スル其生涯ヲ終ルリ故曰人
 ヲ呪詛スル者ノ福ヲ願ヒ己ヲ憎ム者ヲ惠ミ己
 天凌雲スル者ヲ為メニ祈禱セサルヘカラス
 天ノ摸範ノ外云人ノ仁惠ヲ行フヘキノ道理猶
 數種アリ左ニ其一ニ天ノ揚クテ人ノ受
 第一 天ノ仁惠ヲ行フヲ以テ其天ニ對シテ
 犯セル罪ヲ免ルルヲ簡條トセリ曰ク汝人ノ罪
 ヲ恕セサレハ天亦汝ノ罪ヲ恕セサルヘシト
 第二 人ノ己ヲ遇スル不善ナル者為メニ顯ハ

ル、所ノ徳ハ人物ノ最モ高キヲ表シ人ノ天上
 ニ昇ルヲ得ルニ最モ欠クヘカラサルモノナ
 リ即チ溫柔、堪忍、寛恕等ニシテ此ノ如キ徳ハ天
 ノ特ニ幸福ヲ賜フ所ノモノナリ其天ニ健
 人カヲ以テ報スルヲ得ル所ノ徳ハ人ヲ愛シ
 人ヲ畏ル、人念ヨリ起ルヲ以テ實ニ天ニ愛シ
 天ニ從フノ証據ハ人ノ報スルヲ能ハサレ徳ヲ
 行フニ在リ故ニ是等ノ徳ヲ以テ眞實信心ノ証
 據トス聖人曰ク汝小人ニ對シテ慈悲ヲ行ヒ
 心ハ即チ我ニ對シテ行ヒタルナリト云フ

仁惠ノ定則ハ普ク人類ニ及ブモノニシテ親族
 ト他人トノ別ナク國人ト外國人トヲ論セス耶
 蘇教徒ト異教ノ徒トヲ問ハス只其人類タルヲ
 以テ仁惠ヲ受クルニ足ルリトシ是天ノ定則ナ
 リ特ニ然ルヲ示ナラス或ハ疎遠ノ人ニ對シテ
 仁惠ヲ施スヲ以テ更ニ榮トスルヲ理アリ其故
 ノ疎遠ノ人ニ對シテ仁惠ヲ行フハ報ヲ得ル
 ノ望最モ少ナクシテ己ノ私意ナキハ分明ナル
 英國ノホワルド氏ハ其國中ノ獄ヲ巡察セシ

其敵國佛蘭西ノ獄ニ至ルマテ廣ク之ヲ巡察セ
 シヲ以テ更ニ一層ノ美事トス且其本國於テ
 仁惠ヲ為メニ死スルヲ榮トスルニ足レリ然ル
 猶遠キ魯西亞國ノ僻邑ニ於テ死セシヲ以テ
 其榮更ニ幾倍セルヲ知ラス其地ハ元來無名ノ
 一小邑ナレバホワルド氏仁惠ノ為メニ死シテ
 永ク骨ヲ理ヌタルノ故ヲ以テ其名今於テ猶
 世間ニ流布セリゴッホワルドハ英國ノ人ニシ
 牙國ノ大地震ニ遭ヒシ者ヲ救ハシハシ為メニ其都川
 スボシニ赴カントセシカ其頃英仙ノ間ニ戰爭

獲テ本國中ニ在テ親ク其幸ヲ常ニ為
 テ本國中ニ在テ親ク其幸ヲ常ニ為
 巡察ニ魯西亞ニ耳其ヨリ速ク亞細亞諸國ニ及ホ
 リシ邑ニ至テ熱病ヲ患フ人々訪ヒ其病ニ
 染テ死セシ時ニ造リタルホルトノ禮拜堂ニ
 衆人ノ資ヲ捐テ造リタルホルトノ禮拜堂ニ
 人タル者仁惠ヲ行フノ任アルヲ以テ推スルハ
 萬國ノ交際ニ於テモ亦同様ノ任アラサルノ理
 カテ予ノ意見ニ依リハ萬國ノ仁惠ニ本テ互ヒ
 夫相交ルノ任アルヲ各箇ノ人ト異ナレトシ
 即チ天ノ與ヘタル力ヲ盡シテ互ヒニ仁惠ヲ施

スヲ以テ交法ノ本ト為スヘキヲ云フ
 次ノ章ニ於テ不幸ノ人不善ノ人及ヒ己ヲ害ス
 ル人ニ對シテ仁惠ヲ論スヘシ
 第二章 窮迫ノ人ニ對シテノ仁惠
 窮迫ノ人ニ對シテノ仁惠
 人ハ貧窮疾病老衰無知ノ為メニ窮迫奈何ト
 モスヘカラサルコトアリ
 單ニ貧窮ナルノミナレハ勞動スルノカ
 間ハ大抵之ヲ救フヲ要セス其衣食カキナキハ宜シ

ク自ラ勞動シテ之ヲ得ハレ此ノ如キキニ於テ
 人ノ行フヘキ職務ハ之ニ産業ヲ授ク自ラ其身
 ヲ養フコトヲ得セシムルニ在リ懶惰ノ人ヲ扶テ
 遊食スルコトヲ得セシムルハ其人ニ對シテモ社
 中ニ對シテモ決シテ仁惠ニ非ラス是天ノ仁惠
 ノ趣意ナリ夫レ天ハ萬民ニ飲食ヲ與ヘテ一身
 ヲ養ワコトヲ得セシムルト雖ハ只勞動ノ効ニ
 因テ之ヲ得ハカラシム亦聖徒ホトルモ人若シ
 勞動セズレバ當ニ食フコトナカルヘシト言ハリ
 第一 前條ノ如シト雖モ又一概ニ此例ヲ以テ

推スヘカラサルコアリ人天災ニ因テ産業ノ方
ラ失フコアリ譬ヘハ破船火災洪水若シクハ製
造ノ盛ナル地ニ於テ職業ナキ時ノ如キ是ナリ
事實自己ノ懶惰ヨリ起リタルニ非ラスレテ天
災ノ為メニ窮迫ニ至ルハ之ヲ救フヘシ親
勞動ヲ以テ其子ヲ養フニ力足ラサルモ亦然リ
其夫ニ死別シタル寡婦ノ數多ノ小兒ヲ養育ス
ル片屢此事アリ又更ニ隣ニハキハ小兒其兩親
ヲ亡レシ片是ナリ此ノ如キ片若シ人ノ仁惠ヲ
施シテ之ヲ救フニ非ラスレハ死凶ヲ免ルハ

能ハサルハシ業ヲ勤メテ其
第二ニ疾病 人疾病アル片ハ平常ヨリモ衣食
ノ安樂ヲ要スル自ラ勞動スル力ナシ若シ
之ヲ扶ル者ナキ片ハ富人ト雖ヘハ艱難ヲ免レ
ス況ニ貧者ニ於テヤ此ノ如キ片ハ啻ニ金錢
ヲ與ヘテ之ヲ救フノミナラス自ラ看病シテ病
人ヲ慰ムルハ
第三ニ老年 老年ハ必ズシモ疾病ノ患アルニ
非ラサレハ大抵老衰シテ寂寞無聊ニ苦シム
少ナカラズカヲ盡シテ其憂悶ヲ慰メ其勞苦ヲ

論
三六

扶クルハ仁惠ノ職務ニシテ孝愛ノ一種ト称ス
 右ハ此條ニ於テ仁惠ヲ施スヘキ箇條ニシテ之
 ヲ施スノ規則ハ即チ左ノ如シ
 第一 貧人ノ疾病若クハ老年ノ為メニ少シモ
 勞働スルニ能ハサル者ハ金外之ヲ扶助スヘシ
 第二 貧人ノ疾病老年若クハ孤獨ノ為メニ一
 身ヲ養フ力足ラサル者ハ之ヲ助ケテ其不足
 ヲ補フヘシ
 第三 眼前職業ヲ得ルノ方ナキ者ハ一時其急

ヲ救フテ然ル後之ニ職業ヲ授クヘシ人ヲ以テ
 自ラ一身ヲ養フコトヲ得セシムルハ仁惠ノ最モ
 大イナルモノナリ
 第四 貧人ヲ以テ獲ル所ノ些少ノ金錢ヲ蓄積
 セシムルノ方ヲ設クルハ大ニ仁惠ナリ
 一ハ積金所ノ如キ者はナリ是等ハ職業ヲ勉ム
 ル者ヲ以テ獨立自主ヲ得セシムルノ良方ニシ
 テ之カ為メニ家産ヲ起セシムル者甚ク多シ
 仁惠ヲ施ス者ニ於テ左ノ如キ注意スヘキ事件
 アリ

第一 仁惠ノ職務ハ天ノ萬民ニ賦スル所ノモ
 ノニシテ人盡ク他人ニ金錢ヲ施スル能ハスト
 雖ハモ別ニ手段ヲ用テ艱難ヲ扶ケ禍災ヲ憐ム
 ノ方アラサルコトク童子モ亦成人ノ如ク仁惠
 ヲ施スルヲ得可シ若シ童子玩具ヲ買フヘキ錢
 ノ半ヲ以テ病人ノ為メニ食物ヲ買ヒ或ハ貧窮
 ナル隣人ト其樂ヲ共ニスルハ徳ニ進ムノ最モ
 良方ナラン
 第二 仁惠ヲ行フノ方ハ艱難ヲ受レ者ヲ親ル
 ク目撃シテ自ラ之ヲ救フヲ宜シトス他人ニ物

ヲ與人ノ之ヲ施サシムルモ全ク施サハルニハ
 勝レリト雖ヘル自ラ施スニ及ハズ遠クシ
 テ人ノ心ヲ修メ入ラメ天ノ恩ヲ感セシムルハ
 親シク他人ノ艱難ヲ目撃スルニ如クモノナシ
 第三 人ニ物ヲ施スニ祈禱ヲ如ク教法ノ職務
 ナルヲ以テ務メテ之ヲ秘密ニスヘシ夫レ天ハ
 隱微ヲ照シテ人陰徳ヲ行ハル必ラス之ニ陽報
 ヲ與フヘシ
 教育ノ事
 凡ソ入トシテ讀書寫字算術ヲ能クセサルハ其

論
 後編卷二
 四

大不幸ナルヲ知ラサルヘカラス此ノ如キ人
ハ知識ヲ博ムルノ手段ナクシテ天ノ教誡ヲ知
ルヲ能ハサルノミナラス朋友ノ贈リタル書翰
スラ猶讀ムヲ能ハス若シ知識ナルノ人之ヲ教
導セハ天甚ク之ヲ喜シスハ夫レ夫レ夫レ夫レ
我合衆國、都邑ニ於テハ大抵休日學校ノ設
リ是レ無知ヲ教導スルノ良方ナリ少年人仁惠
ヲ務メ天ニ從ハレト欲スル者ハ力ヲ盡シテ之
ヲ助ケハレ小兒ヲシテ無知不善ニ陷ルヲ免レ
シムルハ實ニ大イナル仁惠ト謂フヘシ

且是等ノ學校アルキハ人ニ學藝ヲ授クルノミ
ニ非ラス亦其靈魂ヲ救フヘキ教法ヲ教フル
ヲ得可シ少年ノ人其天ヨリ受ケタル恩惠ヲ他
人ニ授ケテ天ニ謝スルノ意ヲ表スルハ天ノ最
モ悦マ所ナリ

第二條
人ニ對シテノ仁惠
前條ハ只不幸ノ人ニ對シテノ職務ヲ論セリ今
此條ニ於テハ惡人ニ對シテノ職務ヲ論スハ
疾病老年若クハ貧窮ノ為メニ不幸ノ者アレハ

之ヲ救フノ職務タルヲハ上ニ記セシカ如シ夫
レ最モ憐ム可キ者ハ罪ヲ天ニ得ルニ在リ故ニ
惡人ハ不幸ノ最モ甚クシキモノニシテ且ツ他
人ヲ誘フテ之ヲ同惡ニ陷ラシムルヲ譬ヘハ傳
染病ヲ患フル者ノ害ヲ衆人ニ及ホスカ如シ如
之今^{ミナ}生ノ苦勞ハ死シテ休ムト雖^レ罪ヲ天ニ得
タル苦痛ハ死後愈甚クシテ永ク之ヲ救フ
ノ方ナシ
之ニ由テ考フレハ惡人ハ就中憐ムヘキ者ナル
「知覺」ヘシ故ニ之ヲ導テ善ニ進マシメントス

ルハ特ニ人ノ職務ナリ
惡人ハ之ヲ避ケテ近ツクヘカフスト言フ者ア
リ其言一理ナキニ非ラス人惡人ト交ルヘカラ
ス其惡習ニ染ムヘカラス醉人ト共ニ飲ムヘカ
ラス天ヲ汚ス者ト親レクスヘカラス然リト雖
ヘ此故ヲ以テ醉人ヲ諫メテ酒ヲ禁セシメ天
ヲ汚ス者ヲ教ヘテ擔ヲ畏レシメントスルヲ不
可ナリト為スヘカラス朋友ト為テ交ルト仁惠
ヲ施ストハ其間自ラ別アリ
人ノ惡人ニ對シテ行フヘキ職務ハ左ノ如シ

第一 惡人ノ禍災艱難ヲ受クルキ之ヲ憐ムヘ
 キヲ善人ト同様ナリト思フヘシ惡人ヲ救フテ
 善人ヲ救ヘル如ク心ニ樂ヲ覺コヘキ事ハ難シ
 ト雖ヘ氏之ヲ以テ惡人ヲ救フハ善人ノ救フト
 同様ノ職務ニ非ラスト為スヘカラス

第二 カヲ盡シテ其不善ヲ改メ善ニ進マシム
 ヘシ

其方左ノ如シ

其一 模範 自ラ善ヲ行フテ之ニ示スハ惡人
 ヲ諫ムルノ最モ親切ニシテ最モ良方ナリ故ニ

之ト共ニ居ルハ己ノ善夫與ハレテ不善ヲ憎
 ムヨ又示シ縱令彼等ノ我ヲ嘲笑厭惡スルコト
 亦モ猶彼等ヲ愛スルノ念ヲ以テ之ヲ忍ムル
 其二 書教諭 適宜ニ談話ヲ以テ其所行ノ惡
 キヲ窺ラレヌ之ヲ勸勵シテ善ニ及ラシムル
 此ノ如キコトハ大抵私行ノヲ行フヲ以テ其功
 多シトスハ人々ハ之ヲ知ラズモ其功ハ
 第三 人人ヲ善ニ及ラシムルハ教法ニ如ク者ナ
 リ故ニ談話ヲ以テ之ヲ世人ニ知ラシムルノ
 ナラス亦カヲ盡シテ教法ノ書ヲ世上ニ廣ムヘ

第四 四海ノ内皆兄弟ニシテ人々脩身ノ方ニ
於テ人ノ教ヲ要セサル者ナレ故ニ廣ク惡人ヲ
教化スルハ人ノ欠クヘカラサル職務ナルヲ分
明ナリ夫レ天下ノ久永世ノ幸福ヲ得可キ方
ヲ知ラサル者多シ是ヲ以テ何レノ地ニテモ教
法ヲ書ナキ處ニテラバ必ラス之ヲ贈ルニシ
第五 人心暗愚ニシテ非ヲ改ムレト甚ク難シ
若シ天ノ助ナキ片ハ之ヲ教化セシトスル功
ヲ奏スルノ望ヲカルヘシ夫レ天ニ祈禱スレハ

其助ヲ假スモノナリ故ニ世ニ仁惠ヲ施サント
スル者ハ天ニ祈禱シテ其助ヲ乞フト亦欠クヘ
カラサルノ職務ナリ

第三條

己ヲ害スル者ニ對シテノ仁惠

茲ニ人アリ帝ニ惡事ヲ行フノミナラス亦我ニ
害ヲ加ヘタル片ハ之ニ對シテ行フヘキ職務如
何
第一 所作ノ不善ナルハ我ニ對シテ行ヒシ片
ト他人ニ對シテ行ヒシ片ノ如ク之ヲ憎ムハシ

人ハ何様ノ景況ニ於テモ善ヲ愛シ不善ヲ憎マ
サルヘカラス

第二 前條ノ如レト雖ヘ凡其人ニ於テハ惡人
タルヲ以テ其不幸トナレ憐テ之ヲ教化スヘレ

第三 我ニ加ヘタル害ヲ寬恕スルハ我職務ニ
シテ殊ニ聖人ノ命セレ所ナリ曰ク汝人ノ罪ヲ

恕セサルハ天亦汝ノ罪ヲ恕セサル可レト故ニ
人永世ノ幸福ヲ得ルノ望ハ只此命ニ役ノニ在

第四 我害ヲ被ハリタルハ善良ノ模範ヲ示レ

テ害ヲ為セシ者ニ仁惠ヲ施スヘキ好機會ナリ

故ニ善ヲ行フテ其惡ニ克ツテ我職務トス聖人

曰ク汝ヲ咒詛スル者ノ福ヲ願ヒ汝ヲ憎ム者ヲ

惠ム汝ヲ凌虐スル者ノ為メニ祈禱スハシト

此ノ如キ方ヲ以テ難ヲ定ムルハ報復ヲ行フニ

勝ルル數倍ニシテ此方ヲ用ルルハ雙方共ニ善

ニ進ミ報復ヲ行ハハ雙方共ニ其品性ヲ損ヒ一

ハ際限ナキノ亂ヲ醸シ一ハ只善ヲ行フノ故

ニニシテ直ニ世間ニ人ヲ害スルノ所行ヲカラ

シムヘレ

然、凡當我ニ對シテ罪ヲ犯スノミナラス亦社
 中ニ對シテ罪ヲ犯ス者ハ相當ノ為方ヲ以テ之
 ヲ罰シテ可ナリ若シ人我家ニ入テ物ノ奪フ所
 ハ之ヲ執ハテ入牢セシム可シ否ヲサレハ裁ヲ
 行フテ生涯止マシテ其人ト世人トノ最モ大
 イナル不幸ナルヘシ人ノ我ニ害ヲ加ハタルヲ
 寛恕シテ之ヲ教化スルハ善シト雖モ其惡ヲ制
 止スルノ為方ヲ用フルモ亦其人ト世人トニ對
 シテ止ムコトヲ得サル職務ナリ然レバ世人
 社中ハ此ノ如キ惡入ラシテ其惡ヲ改メシムル

ノ職務アルモノト思ヒ罪入ヲ遇スルニ慈愛ヲ
 シテシテ衣食ノ不足ナカラシメ方便ヲ盡シテ
 之ヲ善ニ導クヘシ此ノ如キ所ハ獄ヲ設ケタル
 ハ恰モ脩身ノ學校ヲ建タルカ如クニシテ惡入
 及ヒ社中ノ最モ大ナル幸福ナラン
 古昔少年ノ罪ヲ犯セシ者ヲシテ身ヲ匿サシム
 ルノ處ヲ設ケ大ニニ社中ノ幸福トナリ數百人
 ノ少年ヲ救ヒシコトアリ今日ノ獄モ之ト同様ノ
 方ヲ用フヘシ然ルモハ亦同様ノ効アラシ

第三章

畜類ニ對シテノ職務ヲ論ス

畜類ノ感覺アルヲ猶入ノゴトクニシテ其苦樂ヲ覺ユルノ度ニ於テハ異ナルヲ無カル可シ其最モ人ニ異ナル所ハ修身ノ能力無クシテ是非ヲ別ツテ能ハサルニ在ルノミ

然レヒ畜類ハ人ト同等ノ者ニ非ラス故ニ人ニ對シテ相互ノ權アリト稱スルヲ能ハスシテ人其樂ヲ減シ或ハ必要ニ因リ又便利ノ為メニ其生命ヲ取テ己ノ樂ヲ達スルノ自由アリ天畜類ヲ以テ人ノ食物ト為シ人ニ之ヲ生殺スルノ權

柄ヲ與ヘリ然レヒ天ノ許シタル目的若クハ方法ノ外ニ此權柄ヲ用フルノ權ナシ

第一 必要ノ片ハ殺シテ食物トスルモ妨ナシ人牛ノ食ハント欲スレハ之ヲ殺シテ可ナリ然レモ戯レニ之ヲ殺スノ權ナレ又肉ヲ取テ食ト為シ或ハ皮ヲ獲テ衣ト為サント欲スルハ野ニ獵シテ鹿若クハ野牛ヲ射ルモ妨ナレト雖モ射藝ニ熟センカ為メニ之ヲ射ルノ權ナシ故ニ鳥ヲ食ハルカ為メニ之ヲ射ルハ是ナリト雖モ此戲レニ之ヲ射ルハカラス人豈ニ一時ノ勸樂

ノ為メニ畜類ヲシテ生活ノ幸福ヲ失ハレムハ
ケシヤ

第二 又之ノ勞動一用フルモ妨ナレ譬ハ馬
ヲレテ物ヲ牽カシメ或ハ之ニ乗ルカ如キ即是
レナリ

第三 此ノ如ク勞動ニ用フルモ之ヲ憐テ無用
ノ勞苦ヲ受ケシムヘカラス若シ人命ヲ救ヒ緊
要ノ事件ヲ行ハシカ為メ止ムコトヲ得サレハ非
常ニ之ヲ驅使スルノ自由アレバ己ノ歡樂或ハ
賭博ノ為メニ之ヲ行フノ權ナレ

第四 是ヲ以テ競馬闘鷄等ノ如キ畜類ヲ苦マ
シメテ歡樂ニ充ルハ純粹ノ惡事ニシテ天人人
ニ與ヘタル畜類ヲ生殺スルノ權柄ハ此ノ如キ
目的ノ為メニ非ラズ畜類ノ互ヒニ相害スルヲ
觀シカ為メニ知識ノル人類ノ集リタルカ如キ
見ルニ忍ビサルモノ無ク人心ヲレテ残忍ナラ
シムルコト畜類ノ兇暴ヲ觀ルヨリ甚タシキモノ
ナシ

修身論 大尾

東京

和泉屋市兵衛

市川清流 校

修身論

大尾

哭

